

【教養試験についての Q&A】

Q1 新しい教養試験の特徴は何ですか。

これまでの教養試験は、地方公共団体の職員として職務遂行に必要となる能力を検証することを目的としていましたが、これに加えて、

- ・これからの地方自治を支える多様な人材を確保したい
- ・民間企業志望者も受験しやすい試験にして応募者を増やしたい
- ・各団体が重視する能力や様々な受験者層に合った試験をしたい

といった、各ご利用団体のニーズに沿って、タイプの異なる問題集を選択できるようになりました。

各地方公共団体においては、多様化する住民のニーズや複雑化・高度化する行政課題に対応するため、幅広い分野から多様な、能力のある人材を確保することがますます重要となっています。こうした各団体のニーズに応えるため、民間企業を志望する方も含め学歴や分野にかかわらず、多くの受験者が受験しやすくなるように出題分野構成を変更するとともに、知能重視タイプの **Logical- I・II** と基礎力タイプの **Light** をご提供し、各団体の選択の幅を広げました。

Q2 教養試験にはどのような種類の問題集がありますか。

これまでの教養試験は、主に学歴を念頭にレベルを分けていましたが、新しい教養試験では、学歴にかかわらず、各地方公共団体の求める人材像、重視する能力、受験者層に応じて問題集を選択していただけるよう、問題の種類と難度によって 3 タイプ 5 種類の問題集を用意しました。

Q3 Standard はどのような問題集ですか。

これまでの教養試験と共通性の高い問題集で、分野構成は、知識分野 20 題(時事、社会・人文、自然に関する一般知識を問う問題を出題)・知能分野 20 題(文章理解、判断・数的推理、資料解釈に関する能力を問う問題を出題)となっています。

概要は次の通りです。

- ・これまでと比べて時事を重視し、社会的に幅広い分野の題材 (ICT, 環境問題,

社会保障など)を出題します。なお、「古文」、「哲学・文学・芸術等」、「国語(漢字の読み、ことわざ等)」の出題はありません。

- ・難易度はⅠとⅡの2段階です。
- ・「Standard・Ⅰ」は大学で学習するような内容を含むことから、従来の教養1と同じ難度の試験としてご利用いただけます。
大学卒業程度以上の受験者を対象とした試験でのご利用をお勧めします。
- ・「Standard・Ⅱ」は高校で学習する内容を含むことから、従来の教養3と同じ難度の試験としてご利用いただけます。高校卒業程度や短大卒業程度の受験者を対象とした試験から、大学卒業程度以上の受験者を対象とした試験まで、幅広くご利用いただけます。

Q4 Logical はどのような問題集ですか。

知識より論理的思考力等の知能を重視する問題集で、分野構成は、知能分野 27 題(文章理解, 判断・数的推理, 資料解釈に関する能力を問う問題を出題)・知識分野 13 題(時事, 社会・人文に関する一般知識を問う問題を出題)となっています。

概要は次の通りです。

- ・知能分野では Standard よりも文章理解, 判断・数的推理, 資料解釈の出題をそれぞれ増やす一方, 知識分野では「自然に関する一般知識」の出題がありません。また, 「古文」, 「哲学・文学・芸術等」, 「国語(漢字の読み, ことわざ等)」の出題はありません。
- ・知識分野では, これまでと比べて時事を重視し, 社会的に幅広い分野の題材 (ICT, 環境問題, 社会保障など) を出題します。
- ・難度はⅠとⅡの2段階です。
- ・「Logical・Ⅰ」は大学で学習するような内容を含みますが, 従来の教養1よりもやや易しくなります。大学卒業程度以上の受験者を対象とした試験でのご利用をお勧めします。
- ・「Logical・Ⅱ」は高校で学習する内容を含むことから, 従来の教養3と同じ難度の試験としてご利用いただけます。高校卒業程度や短大卒業程度の受験者を対象とした試験から, 大学卒業程度以上の受験者を対象とした試験まで, 幅広くご利用いただけます。

Q5 「Standard」と「Logical」の違いは何ですか。

「Standard」の構成は、知識分野と知能分野の出題割合が半分ずつとなっておりますが、「Logical」は知識分野と知能分野の出題割合が約1：2となっております。

「Standard」は、時事、社会・人文、自然に関する幅広い一般知識に関する問題と、文章理解、判断・数的推理、資料解釈といった知能分野に関する問題をバランスよく出題しています。

これに対し、「Logical」は、論理的な思考力や理解力、判断力などの知能的側面の検証をより重視するため、全40題のうち27題を知能分野の出題としております。一方、知識分野では自然分野からの出題はありません。

Q6 Logicalではなぜ自然分野を出題しないのですか。

Logicalでは、知能分野を重視することから、知識分野の問題が少ない中で、受験者の負担を考慮し、より効率的に作業との関連が強い分野の知識を問う方が望ましいと考え、時事、社会・人文の分野からの出題とすることにしました。ただ、自然に関する身近で基本的な事柄や常識等は時事の分野のテーマとして取り上げ、出題することがあります。

Q07 Lightは、どのような問題集ですか。

Lightは、多様な人材を確保したいという地方公共団体のニーズの高まりを受け、これらに対応できるよう開発した問題集です。これまでの教養試験に比べより基礎的・常識的な問題から構成されており、民間企業を志望している受験者にも受けやすくなっています。

概要は次の通りです。

- ・ 出題数は全60題で、「社会への関心と理解」(24題)「言語的な能力」(18題)「論理的な思考力」(18題)という、大きく分けて三つの分野について、考える力や幅広い関心を問う問題を出題します。
- ・ 地方公務員の採用試験であることを踏まえ、「社会への関心と理解」の分野では、地方自治に関する基礎的な知識を問う問題も出題します。
- ・ 全ての問題が四つの選択肢から一つの正解を選ぶ四肢択一式のマークシート式試験です。各問題は、StandardとLogicalよりもコンパクトで、易しくな

っております。

- ・解答時間は75分で、StandardとLogicalよりも短い時間での実施が可能となります。

Q8 Lightはどのような場合に使用すればよいですか。

Lightは主に新規学卒者を対象として、社会への関心や基礎的・常識的な知識、職務遂行に必要な基本的な言語的能力、倫理的思考力を問う試験です。次のような場合のご利用に適しています。

- ・公務員試験に向けた準備をしていない者を対象に試験を実施したい場合
- ・民間企業志望者も受験しやすい試験にして応募者を増やしたい場合
- ・人物重視だが、基礎的な知的能力を確認しておきたい場合
- ・学歴を問わず幅広い層の受験者を対象とする場合
- ・職種にかかわらず、基礎的な知的能力を確認したい場合
- ・専門試験を重視し、教養試験は易しくしたい場合

Lightは基礎的な知的能力を検証するための試験ですので、専門試験や検査、面接試験等、他の試験と組み合わせてのご利用をお勧めします。

Q9 「Light」と「職務基礎力試験(EA)」との違いは何ですか。

「Light」が主に新規学卒者を対象として、社会への関心や、高校等で学んだ基礎的・常識的な知識、職務遂行に必要な基礎的な言語能力、論理的思考力を問う試験であるのに対して、「職務基礎力試験(EA)」は、職務経験者(社会人)を対象とする試験で、一般社会で身に付けていく知識や能力を問う問題も出題されますので、対象に応じて使い分けてのご利用をお勧めしております。

なお、分野や四肢択一形式は同様ですが、題数、解答時間は異なります。分野の構成割合は、「職務基礎能力試験(EA)」は3分野均等ですが、「Light」は「社会への関心と理解」の分野が多めになっています。

Q10 SPI,SCOA とはどのような違いがありますか。

SPI, SCOA, にも知的側面を見る部分があり、それぞれ特徴がありますが、SPI では主として受験者の思考・判断力などの基礎能力を見ており、SCOA では受験者の基本的な知的能力と学校で学ぶ知識や常識などを見ていると言われています。

これに対し、当センターで提供する試験・検査は、地方公務員の採用試験として開発されたものであり、地方公務員として必要とされる能力、すなわち職務遂行上求められる能力を測定できるよう設計されています。当センターの教養試験は、時事的事項の理解を問う問題や、地方に関する基礎的な知識を問う問題、あるいは文書や英語を理解する能力を問う問題、論理的な思考力を問う問題などを通じて、「採用試験は（略）標準職務遂行能力（略）適性を有するかどうかを正確に判断することをもつてその目的とする。」という地方公務員法第 20 条の趣旨に沿った試験問題集を体現しようとするものです。